

# ビブリオバトル・シンポジウムとは何か

What is the Bibliobattle Symposium?

岡野 裕行

Hiroyuki OKANO

皇學館大学文学部国文学科

Department of Japanese Literature, Faculty of Letters, Kogakkan University

あらまし：ビブリオバトルはその考案者や考案時期が明確であり、積極的に普及活動が進められているゲームである。2014年から開催が続くビブリオバトル・シンポジウムは、さまざまな観点からビブリオバトルの機能やノウハウを検討・共有する場となっている。本発表では、先行するビブリオバトル春のワークショップ（2012～2017年）の歴史も含めつつ、普及活動のなかで同シンポジウムが果たしてきた役割を述べる。

キーワード：ビブリオバトル，図書館，学校教育，地域コミュニティ，出版，出会い

## 1. ビブリオバトルの普及状況とビブリオバトル普及委員会の動向

ビブリオバトルは、2007年に谷口忠大が考案したゲームである。谷口を中心として2010年にビブリオバトル普及委員会が設立され、ノウハウの積極的な情報提供やイベント開催が継続的に行われてきたことで、全国各地にビブリオバトルの愛好者が増加している。当初は大学の研究室での自主的なゼミから始まった取り組みだが、その普及が進んでいく過程で、①国の政策への反映、②教育機関（図書館や学校）での導入、③出版社や作家との協力関係の構築、④全国大会の開催、⑤関連書籍の出版、など多様な方面に影響が及んでいることが確認できる。

ビブリオバトルは有志による草の根活動によって広がっているため、その普及状況の全貌は、全国各地の個人・団体による活動実績の集合として考えなければならない。しかし、各地の開催情報が集まるビブリオバトル普及委員会でも、既にその実態を追いきれないほどに導入事例が積み重なっている。ウェブ上の活動報告やマスメディアの記事などから各地の普及状況は確認できるが、今日の普及状況から想像すれば、そのような公開情報はごくわずかな部分であり、普及の全体像を把握することはきわめて困難である。そこで本発表では、あくまでも表層的な部分に限定されるという条件付きとなるが、全国レベルで話題になったビブリオバトル関係のトピックスを整理することで、これまでの普及状況から見えてくる特徴をまとめていく（表1）。

## 2. ビブリオバトル春のワークショップとビブリオバトル・シンポジウムの位置付け

表2と資料1は、ビブリオバトル春のワークショップの歴史と開催理念をまとめたものである。ビブリオバトル普及委員会は全国規模でメンバーを徐々に増やしてきたが、ほかの地域の活動状況がお互いに見えづらという課題を抱えていた。そこで普及委員会のメンバー同士の直接的な対話を進めるため、2012年に各地域の取り組みや考え方を紹介しあうビブリオバトル春のワークショップを開始した。普及委員会のメンバーが全国から集まり、①活用事例の共有、②情報交換、③場作りに関する議論、などについて話し合う小規模な場をつくってきた。

表3と資料2は、ビブリオバトル・シンポジウムの歴史と開催理念をまとめたものである。ビブリオバトル・シンポジウムは春のワークショップとは異なり、開かれた空間に議論の場を設定し、ビブリオバトル普及委員会の外部に向けての情報発信を想定している。開催のたびに議論のテーマが設定されるとともに、ビブリオバトル普及委員会のメンバー以外の人たちにもパネリストとして登壇してもらうことも特徴である。ビブリオバトル・シンポジウムの開催が

軌道に乗ってからは、普及委員会内でビブリオバトル春のワークショップが担っていた領域を徐々に縮小し、多くの人たちの目に触れる議論の場の構築をより重要視するようになった。

### 3. ビブリオバトル・シンポジウムを通して何を実現してきたのか

ビブリオバトル・シンポジウムがこれまでに果たしてきた役割は、以下の5点に整理できる。

- ①ビブリオバトルの参加者や主催者が、実施の際に何を意識しているのかを言語化すること。
- ②ビブリオバトルの参加者や主催者にはどのようなメリットやデメリットがあるのかなど、可視化されづらかったビブリオバトルの機能や効果について言語化すること。
- ③ビブリオバトルの公式ルールの解釈や開催方法の多様性を言語化すること。  
→公式ルールが規定していること（必ず守るべきこと）と、公式ルールでは特に言及されていないこと（参加者や主催者の自由な裁量でアレンジできる部分）を整理していく。
- ④ビブリオバトル普及委員会や各主催団体が蓄積してきた開催場所・開催時間・開催方法などのノウハウを整理し、そこから得られた知見を広く一般にも共有すること。
- ⑤ビブリオバトル普及委員会のメンバー以外の人たちからの意見も加えることで、ビブリオバトルの楽しみ方や実施方法についての可能性をさらに広げるための気づきを得ること。

表1 ビブリオバトル年表

年	ビブリオバトルの普及活動	全国大会の共催・後援など	社会的評価／出版活動
2007	●谷口忠大がビブリオバトルを考案		
2010	●ビブリオバトル普及委員会設立	●ビブリオバトル首都決戦 2010	
2011		●ビブリオバトル首都決戦 2011	
2012	●ビブリオバトル春のワークショップ 2012	●ビブリオバトル首都決戦 2012	●知的資源イニシアティブ「Library of the Year 2012」大賞受賞
2013	●ビブリオバトル春のワークショップ 2013	●ビブリオバトル首都決戦 2013	●文部科学省「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」への掲載 ●谷口忠大著『ビブリオバトル：本を知り人を知る書評ゲーム』など関連書籍の出版が始まる
2014	●ビブリオバトル春のワークショップ 2014 ●ビブリオバトル・シンポジウム 2014	●全国大学ビブリオバトル 2014：京都決戦 ●全国高等学校ビブリオバトル 2014	●山本弘著『翼を持つ少女：BIS ビブリオバトル部』など小説の題材となる
2015	●ビブリオバトル春のワークショップ 2015 ●ビブリオバトル・シンポジウム 2015	●全国大学ビブリオバトル 2015：首都決戦 ●全国高等学校ビブリオバトル 2015 ●ビブリオバトル全国大会 in いこま	
2016	●ビブリオバトル春のワークショップ 2016 ●ビブリオバトル・シンポジウム 2016 ●Bibliobattle of the Year 2016 ●（一社）ビブリオバトル協会設立	●全国大学ビブリオバトル 2016：京都決戦 ●全国高等学校ビブリオバトル 2016	●第10回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」特別賞を受賞 ●国語科教科書や教師用指導書への掲載が始まる
2017	●ビブリオバトル春のワークショップ 2017 ●ビブリオバトル・シンポジウム 2017 ●Bibliobattle of the Year 2017	●全国大学ビブリオバトル 2017：首都決戦 ●全国高等学校ビブリオバトル 2017 ●第2回ビブリオバトル全国大会 in いこま	
2018	●ビブリオバトル・シンポジウム 2018 ●Bibliobattle of the Year 2018	●全国大学ビブリオバトル 2018：大阪決戦 ●全国高等学校ビブリオバトル 2018 ●全国中学校ビブリオバトル 2018 ●第3回ビブリオバトル全国大会 in いこま	
2019	●ビブリオバトル・シンポジウム 2019 ●Bibliobattle of the Year 2019	●全国大学ビブリオバトル 2019：首都決戦 ●全国高等学校ビブリオバトル 2019 ●全国中学校ビブリオバトル 2019 ●第4回ビブリオバトル全国大会 in いこま	
2020	(以下はオンライン開催) ●ビブリオバトル・シンポジウム 2020 ●Bibliobattle of the Year 2020	(以下は COVID-19 の影響により開催中止) ●全国大学ビブリオバトル 2020 ●全国高等学校ビブリオバトル 2020 ●全国中学ビブリオバトル 2020 ●第5回ビブリオバトル全国大会 in いこま (以下はオンライン開催) ●大学ビブリオバトル・オンライン大会 2020	●日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典（第5版）』に見出し語として「ビブリオバトル」が立項される

※2010～2013年までの「ビブリオバトル首都決戦」は東京都が主催者だったが、2014年から活字文化推進会議の主催（主管は読売新聞社）へと変わり、そのタイミングで「全国大学ビブリオバトル」へと名称も変更された。

表2 ビブリオバトル春のワークショップの歴史

	開催年	開催年月日	開催会場	発表タイトル
1	ビブリオバトル 春のワークショップ 2012	2012年6月 9・10日	名古屋駅前 モンブラン ホテル (愛知県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●書評×コミュニティ×ゲーム=ビブリオバトル： 2011年のビブリオバトルを振り返って（谷口忠大）</li> <li>●ビブリオバトル普及委員会の現状報告（海川由美子）</li> <li>●東海地区におけるビブリオバトルの展開について（横山晃嗣）</li> <li>●ビブリオパндеミック：感染者拡大につき普及委員出動せよ！ （中津壮人）</li> <li>●鹿児島国際大学におけるビブリオバトルの実践：自分の言葉で表現 できる学生を育成する（元野明，野崎里菜，小野原康行）</li> <li>●ビブリオバトルを通じたシニアと初学者の語り（杉谷弥月，角康之）</li> <li>●ビブリオバトルの発表時間のデザイン： 『発表時間5分』の持たらず効果の検証（赤池勇磨，谷口忠大）</li> <li>●室蘭での活動と第3のビブリオバトル（安部尚登）</li> <li>●ビブリオバトル，ワークショップ，ディスカッション（参加者全員）</li> </ul>
2	ビブリオバトル 春のワークショップ 2013	2013年6月 8・9日	COI名古屋 プラザビル (愛知県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビブリオバトル2013普及四年目のアレグレット（谷口忠大）</li> <li>●ビブリオバトル普及委員会現状報告（海川由美子）</li> <li>●図書館業界における「Library of the Year 2012」大賞受賞の意義と その後の動向（岡野裕行）</li> <li>●学生で行うビブリオバトル：和光大学の実践から（宮本阜）</li> <li>●大学生および社会人参加の英語ビブリオバトルの実践報告： ビブリオバトルの英語教育への活用として（木村修平）</li> <li>●ハンアウトでビブリオバトル：リアルからバーチャルへ（安部尚登）</li> <li>●鹿児島におけるビブリオバトルの現状と成果報告（中村優太）</li> <li>●ビブリオバトルによるコミュニティ形成（飯島玲生）</li> <li>●公立図書館での開催と定着のキーポイント： 関西地区モデルの展開可能性（吉野英知）</li> <li>●ビブリオバトル春のワークショップ杯（有志のバトラー）</li> <li>●ディスカッション（参加者全員）</li> </ul>
3	ビブリオバトル 春のワークショップ 2014	2014年6月 14・15日	札幌エルプラザ 情報センター (北海道)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Maximizing the Diversity of Bibliobattle（谷口忠大）</li> <li>●NPO法人新座子育てネットワークとの、埼玉県普及における取り組み （山口真由）</li> <li>●教育現場でのビブリオバトルカードの活用について（貝森義仁）</li> <li>●広島都市学園大学におけるビブリオバトル活動報告（片山智恵美）</li> <li>●岐阜地区の普及活動について（坂本牧葉）</li> <li>●ビブリオバトル関西大会 in いこまの開催報告（明石友貴）</li> <li>●高等学校情報科でのビブリオバトルの授業実践， および結婚式ビブリオバトルの可能性（小野永貴）</li> <li>●『小規模・少人数』ビブリオバトルの魅力と期待される効果 （高橋一彰）</li> <li>●大学生からみたビブリオバトル（勝田翔太）</li> <li>●筑波大学雙峰祭におけるビブリオバトル活動について（常川真央）</li> <li>●グループワーク（参加者全員）</li> </ul>
4	ビブリオバトル 春のワークショップ 2015	2015年 6月28日	立命館大学 びわこくさつ キャンパス (滋賀県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビブリオバトルとコミュニティ・メディアのこれから（岡野裕行）</li> <li>●英語でビブリオバトルの可能性と課題（木村修平）</li> <li>●高等学校におけるビブリオバトル普及活動（片桐陽）</li> <li>●ビブリオバトル主宰者のための道具箱（飯島玲生）</li> <li>●ビブリオバトル COB カップ（有志のバトラー）</li> </ul>
5	ビブリオバトル 春のワークショップ 2016	2016年 6月19日	皇學館大学 (三重県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビブリオバトルで活躍するアイテムたち： Bibliobattle Records の紹介と併せて（常川真央）</li> <li>●学校でのビブリオバトル：さまざまな実践方法（粕谷亮美）</li> <li>●こすぎ朝学版ビブリオタイマー（瀬川伸一，小池淳一）</li> <li>●知的活動推進協議会：ビブリオバトル（大野晴己）</li> <li>●第2回ビブリオバトル COB カップ（有志のバトラー）</li> <li>●Bibliobattle of the Year 2016 表彰式</li> </ul>
6	ビブリオバトル 春のワークショップ 2017	2017年 6月24日	spice life カフェスペース (東京都)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビブリオバトルのプラットフォーム構築を目指して（常川真央）</li> <li>●グループワーク（参加者全員）</li> <li>●Bibliobattle of the Year 2017 表彰式</li> </ul>

※当初は泊りがけによる2日間で行っていたが、2014年にビブリオバトル・シンポジウムを開始したことに伴って、2015年以降は1日のなかでコンパクトに実施するようにスケジュールを変更している。

### 資料1 ビブリオバトル春のワークショップの開催理念

ビブリオバトル春のワークショップ2012は合宿形式のワークショップです。書評を媒介としたコミュニケーションの場づくりの手法であるビブリオバトルに関する全国の活動報告や、大学、会社、まちづくり、図書館、書店、小中高等学校といったさまざまな環境における活用事例、問題点、またはそれに対する新たな提案などの情報交換を活性化します。知的アクティビティとして、また、知識のゲーミフィケーションとしてのビブリオバトル及び関連のコミュニケーションの場作りに関わる活動の深化と議論の活性化をはかります。

出典：ビブリオバトル普及委員会「ビブリオバトル春のワークショップ2012」  
<http://www.bibliobattle.jp/bibliobattle-official-spring-workshop-2012>

表3 ビブリオバトル・シンポジウムの歴史

	開催名称	開催年月日	開催会場	開催テーマ	登壇者
1	ビブリオバトル・シンポジウム 2014	2014年 12月13日	立命館大学 朱雀キャンパス	コミュニケーションの基盤としてのビブリオバトル(基調講演)	谷口忠大
				学校ビブリオバトルの意義と効果を改めて考える:小・中・高・大の第一線現場教員が語る,多様な教育活用の方法と楽しさ(パネルディスカッション①学校教育)	大橋輝子, 貝森義仁, 後藤俊, 木下通子, 近藤雪絵, 小野永貴, 常川真央
				地域コミュニティを元気に!未来を占うトークバトル!:日常の遊びからつながる“WA”和・輪・話(パネルディスカッション②地域コミュニティ)	赤峰稔朗, 太田剛, 林鉄郎, 樋口悟, 市川紀子
				図書館はビブリオバトルとどのように歩んできたか:図書館への導入・普及とこれからの可能性(パネルディスカッション③図書館)	乾聡一郎, 田中志瑞子, 益井博史, 岡本真, 岡野裕行
				(ポスターセッション)	交流会形式
2	ビブリオバトル・シンポジウム 2015	2015年 11月14日	横浜市中央図書館 (第17回図書館総合展)	コミュニティをつくるビブリオバトル	雨宮智花, 五十嵐孝浩, 亀山綾乃, 安村正也, 吉野英知
3	ビブリオバトル・シンポジウム 2016 仙台	2016年 10月29日 ~30日	せんだいメディアテーク	ビブリオバトルにおけるコミュニティ形成のダイナミクス(基調講演)	谷口忠大
				ビブリオバトルとコミュニティの深化(教育コミュニティ)	須藤秀紹, 小野永貴, 花田麗, 虫明美喜, 木下通子
				東北×ビブリオバトル(トークセッション)	川元茂, 土方正志, 貝森義仁
				ビブリオバトルとコミュニティの深化(地域コミュニティ)	吉野英知, 安田昌代, 小松雄也, 広瀬知明
				(ポスターセッション)	交流会形式
				(ビブリオバトル学生会議)	交流会形式
(学校ビブリオ ランチミーティング)	交流会形式				
4	ビブリオバトル・シンポジウム 2016 大阪	2016年 12月17日	まちライブラリー@ もりのみやキューズ モール	教育現場におけるビブリオバトル推進の今後の可能性	木村修平, 乾聡一郎, 外海靖規, 飯島玲生, 池内祥見, 吉野英知
5	ビブリオバトル・シンポジウム 2017	2017年 11月17日	パシフィコ横浜 (第19回図書館総合展)	教育におけるビブリオバトルの活用を考える:社会教育・学校教育・地域社会	岡野裕行, 奥野康作, 木下通子, 坪内一, 三浦一郎, 瀬部貴行
6	ビブリオバトル・シンポジウム 2018	2018年 10月30日	パシフィコ横浜 (第20回図書館総合展)	本を通じた「出会い」について考える	常川真央, 榎村真由, 小松雄也, 花田菜々子, 益井博史, 岡野裕行
7	ビブリオバトル・シンポジウム 2019	2019年 11月13日	パシフィコ横浜 (第21回図書館総合展)	ビブリオバトル主催における機能と可能性を考える	榎村真由, 松崎萌, 成瀬雅人, 有地和毅, 岡野裕行
8	ビブリオバトル・シンポジウム 2020	2020年 11月21日 (予定)	オンライン (第22回図書館総合展)	ちいさいコミュニティ	磯谷梨紗, 榎村真由, 角谷舞子, 河野亜美, 佐々木奈三江, 佐藤慧

※2016年はビブリオバトル・シンポジウムを2回実施している。仙台会場と大阪会場では、それぞれ別の実行委員会が組織されている。

## 資料2 ビブリオバトル・シンポジウムの開催理念

各地においてビブリオバトルに関する活動が小中高, 大学, 一般企業, 公共図書館等に広まる中で, その共通理解を醸成するための情報交換の場が求められています。これを受けて, 図書館, 書店, 教育機関, 全国の市井のビブリオバトルに関わる多くの関係者が, ビブリオバトルについての実践や研究に関する意見交換, 情報交換を行う場として, 新たに「ビブリオバトル・シンポジウム」を創設します。

出典: ビブリオバトル普及委員会「ビブリオバトル・シンポジウム 2014」<http://sympo14.bibliobattle.jp/>